



もう一つはキャリア教育。2010年8月に開設したキャリア開発センターは就職支援のためだけのものではない。キャリア教育とは人間形成のことであり、講義などを通じて社会人となるための意識作りをするのが目的。大学生活は長いですが、実際には3年次に就職活動が始まってしまふ。人間形成には時間がかかるので、研究者や社会人として将来への目的を持たせるためには初年次からの教育が非常に重要。必修化も検討していきたい。

正課外活動も学生の主体性を育てる上で大切。国立大学は施設充実に予算をあてづらいう中、今年度は体育系サークル棟とトレーニング施設を新設し、さらに文化系サークルが使用するBOX棟も大幅に改修・リニューアルさせる。正課外活動は好きな活動を通じて人間力を磨くことができ、学部・学部の垣根を取り払った人間関係も構築できる。今は学生組織である校友会の強化に向けた

岡山大学に入学した学生は、4～6年間かけてさまざまな能力を獲得する。教養教育をはじめとし、国際舞台で活躍する人材を養成する「言語教育」、研究者や企業人など社会で必要とされる人材を生み出す「キャリア教育」、さまざまな人間関係を育む「正課外活動」など、岡大の充実した教育環境がそれを支えている。阿部宏史教育担当理事に、岡大が目指す「教育」について聞いた。

学生育てる岡大の教育力 特集 Special Section

「主体的な学び」で 人間力育成

Executive Director ▶ Abe Hirofumi



対応を検討している。現在、岡山大学では全学同窓会について議論がなされているが、校友会も在学学生・卒業生のつながりを生み出す力となる。正課外活動支援を通じ、岡大を愛する心を育てたい。

―大学生の「教養」を問う声が大いい。岡山大学の「教養教育」とは。

岡山大学では担当部局であった教養部が平成6年度になくなり全学化。責任部局がなくなった多くの大学で教養教育が迷走化した。岡山大学では今、教養教育の改革を検討している。特に英語教育、リベラルアーツ再構築が主眼。豊かな教養を身に付けるためには

―岡大の教育理念とは。

大学の理念として「高度な知の創成と的確な知の継承」を掲げており、「知の創成」は研究、「知の継承」が教育に当たる。大学にとって教育と研究は不可分の関係にあり、学生は研究室に所属し教員とともに研究を行うことで、「知の創成」に深く関わる。

大学は社会人になるための人格形成を行う最後の教育機関である。卒業後に自立した行動がとれるよう、自身自身を高める意欲を身につけさせるのが使命だ。かつてはサークル活動やアルバイトを通じてリーダーシップを身につけていけば十分、という風潮もあった。しかし最近では大卒人材に即戦力を求める傾向があり、きちんと勉強していることは必須条件。学力、リーダーシップ、研究や社会活動への意欲などさまざまな要素を兼ね備えた人材を輩出しなければならない。

地方大学である岡山大学は大都市の大学とは異なり、岡山県内、中四国が

現在の必要単位数は少ないが、単純に単位数を増やせばよいという問題でもない。専門教育前の1、2年次限定ではなく、「4年間かけて学ぶ」と考え直す必要がある。特に専門科目と同時に得る教養は重要。教養教育は生涯にわたる継続のものであり、出発点となる大学時代にあらゆる分野への興味を持たせることが必要だ。

改革に向け動いているのが英語教育。大学は留学生や外国人教員が多く在籍し、英語を実際に使いやすい環境にある。まずは必修科目数を倍増させるなどカリキュラム強化を図り、コミュニケーション応用力を入れるために「イングリッシュ・カフェ」を活用。来年



必要とする人材ニーズに 대응するという教育目的もある。11学部7研究科で「知」を集積する総合大学として、中四国のクロスポイントに位置する地の利を活かし、グローバル思考を持ちながらローカルニーズも両立させることが必要だ。

―教育理念を実現させるための教育の特色は。

今年8月の中央教育審議会答申で「生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」という方針が打ち出された通り、学生に主体的に学ばせることを重視している。

特色の一つとして学生参画型FDがある。学生と教員の双方向コミュニケーションを狙いに、2001年度に学生・教職員教育改善専門委員会を作り、学生の発案から新たな授業を作る取り組みを実践。この授業は全国でも先進的なモデルとされているが、始まって十数年たつことから絶えず改善していく必要がある。

4月をめどに現在の場所から移転、約3倍にスペースを拡大して機能を充実させる予定だ。学習成果を確認するため、現在は入学時に1回のみ受験するTOEICを、1年次の冬、2年次の終わりとも最低でも計3回に増やすことも計画中。学生にとっても目標を設定することで到達度が分かり、特に2年次の結果は就職活動でもアピールポイントにもなる。

―教育を通じ、どのような人材を輩出していくのか。

理想の人物像を押しつける教育ではなく、学生自身が「なりたいたい姿」を目指すのをサポートするのが大学の使命。言語教育を含む教養教育、初年次中心のキャリア教育に加え、昨年度からは若手研究者キャリア支援センター（通称・ドクターキャリアサポーター）も開設し、長期インターンシップなどを通じて社会とのつながりを強化している。初年次からポストドクターまで手厚くカバーするのが岡山大学の教育支援だ。国立大学が変化してきている今、岡山大学の力量が問われている。教育力、研究力いずれにおいても社会に対して成果を示す必要がある。大学教育における一番の成果は卒業した学生。「なりたいたい姿」を実現した意欲的で優秀な人材を送り出すことが、岡山大学の名を高めることにつながる。

言語教育

LANGUAGE EDUCATION

英語力強化し 世界で活躍



▲現在のイングリッシュ・カフェ

岡山大学の言語教育は変化の時を迎えている。国際的な「学都」を目指すため、大学として「グローバル人材育成」をさらに強化していく方針を打ち出し、さまざまな改革に着手する予定だ。

大きく変わるのは教養教育の英語カリキュラム。現在卒業に必要な英語単位数は4科目8単位だが、2013年度からは8科目8単位と必修科目数を倍増させる。科目内容も充実させるため、1年次はスピーキング、リーディング、ライティング、リスニングに分けて学習。2年次はプレゼンテーションなど専門分野で英語を活かせる内容を強化した上で、さまざまな教材を活用して行う自律学習コース・eラーニング学習コースなど、学生の自主的な学びを促す科目も提供していく。カリキュラム充実の狙いについて、言語教育センター長でもある阿部宏史教育担当理事は「日本人は英語学習に時間をかけているのに、話すのは下手な国民。これは文法中心で、使えない。英語を勉強しておらず、英語を使うことに抵抗感があるから。大学として実践の場を設ける必要がある」と語る。大学の教育部門と国際部門が連携し、入学者の一部を選抜し独自カリキュラムで英語力を強化する「グローバル人材育成特別コース」の新設も決定している。

語学教育充実に欠かせない自律学習や外国語会話実践の場として、大き



移転先の WAKU² スクエア 2



▲移転後のイングリッシュ・カフェのイメージ

な役割を担うのが外国語カフェ。現在、学生会館1階にある「イングリッシュ・カフェ」(115㎡)を、13年度からは一般教育棟A棟別館1階にある「WAKU² (ワークワーク) スクエア2」(334㎡)の場所に移転させ、幅広い言語が集う場として機能を拡大する。

「カフェ利用者が年々増え、広いスペースを要望する声が多かった」と話すイングリッシュ・カフェを担当の宇塚万里子・言語教育センター准教授。移転によってグループ学習や30人程度のセミナー型授業ができるスペースも設けることで、「フリートークをしたい人に

も、じっくり自習をしたい人にもオープンスペースで対応しやすくなる。今まで利用をためらってきた人にも使いやすくなるはず」と期待する。

イングリッシュ・カフェ跡地は自習・談話スペースに模様替えする予定。また、多くの学生が自主学習に利用している「WAKU² スクエア2」が移転に伴いなくなるについては、「一般教育棟内などに代替地の確保を検討している」と阿部理事。「さまざまな自主学習スペースを提供することで、学生自身が自主的かつ意欲的に学ぶきっかけにしてほしい」と呼びかけている。

阿部宏史理事がいずれもセンター長を務める「キャリア開発センター」と「若手研究者キャリア支援センター」。初年次からポストドクターまで岡大生のキャリア形成を手厚く支え、社会における自己実現力を養う要となっている。「キャリア教育＝職業訓練という誤解から、『大学がやるものではない』という批判も受ける。実際はそうした狭い意味の教育ではなく、早くから社会との接点を持たせ大学で学ぶ動機付けにつながる教育だ」と阿部理事は強調する。

キャリア開発センターでは「キャリア形成」という名称で授業を開講。1、2年次中心の授業では、大学で学ぶべきことやコミュニケーション能力、大人としてのマナーなどを講義やデイス



▲「キャリア形成」の授業でグループワークをする学生

キャリア教育

CAREER EDUCATION

社会で生きる 自己実現力

岡山大学の広大なキャンパスには、学生のサークル活動を充実させるさまざまな施設がそろっている。今年度は施設の新設・改修が相次ぎ、学生にとつてさらに活動しやすい環境が整いつつある。

トレーニング部を中心に体育系サークルが利用しやすくなった。クラブ棟はいずれも2階建て各10室の部室があり、これまではばらばらだった体育系サークルの部室を1カ所に集約した。

正課外活動

CLUB / CIRCLE

新施設で サークル力強化



▲校友会トレーニング棟



▲校友会体育系クラブ棟

津島地区の東端、サッカー・ラグビー場南側には「校友会トレーニング棟」(延べ床面積523㎡)と「校友会体育系クラブ棟」3棟(同194㎡)を新設し、11月末に建物完成。トレーニング棟にはこれまで第二体育館2階で使用していた「筋トレ」機器を移動させ、ウエイ

また通称新BOX棟と呼ばれるサークル共用施設も改修し、「校友会文化系クラブ棟」として生まれ変わる予定。主に2階に防音設備などを設け、音楽系サークルの練習もやりやすくなる。体育系、文化系のクラブ棟がはっきりと分かれることで、大学に不慣れな新生にも使いやすくなりそうだ。